

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPO グループホーム すずらんの木 (1ユニット)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成21年11月2日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172800290&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172800290&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのグループホームの理念である『尊厳を守ること』をいつも大切に考えています。長い人生の中で、たくさんの苦勞を乗り越え生きてこられた利用者が、認知症という病氣や年を重ねることにより家での生活が困難になり、ここに入所されました。グループホームでの生活も今までの暮らしの継続であるよう、施設や職員に保護された生活ではなく、自分で考え、自分のしたいことを自分で行っていく達成感、生きる喜びを感じながら生活していただきたいと考えています。また、ご自分の思いを口にされない方や、認知度が進んでいる方々のニーズをどう捉え、生かしていくかが課題だと考えています。職員の人間性はもとより、専門性をより高め、質の高いサービスが提供できるように、職員全体でバリエーションやパーソンセンタードケア、ICFの視点について学びながら、利用者中心の介護を職員全体で考えています。そして、アセスメント能力の向上、様々な視点から物事をより細かく分析出来るよう勉強し、実践に活かせるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の性格やこれまでの生活習慣を大切に、少しでも自分で考えたり、自分で行ったり、生きる喜びを味わったりする生活が継続できるよう支援したいと取り組んでいる。日常で、本人のできそうなことを考え、達成感を感じてもらえるよう工夫している。鍵を掛けないホームの取り組みを行い、ひとりで外出できる支援も行っている。職員研修は積極的に取り入れ、外部研修費用の半額を負担する等応援し、ケアの質を高めるよう職員の育成を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月4回の勉強会の1回は、理念に基づいた勉強をしています。「利用者の尊厳」を中心に、現在はパーソンセンタードケアを職員にレポートしてもらい、介護の中でどのように考えるのかを照らし合わせて学習しています。	管理者は、理念の「利用者の尊厳を守る」とことは、人として最後まで生きぬくこと、性格や生活歴を大切にされることが継続できることであると、職員に伝えている。生活の習慣から掴み取った対応を大切に、それが職員自身の命を大切にすることにもつなげていきたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、学校行事、地域の行事に参加したり、ホーム開催の行事に地域の皆さんに参加していただいたり、買い物や、散歩のときに気軽に話をしたり、畑で収穫をさせてもらったりしています。	ホームは、地域がまたがる2つの自治会と交流を図っている。保育園児がホームを訪問して遊戯や歌を披露したり、中学校の体育祭に利用者が見学に出かけている。管理者は、町内の会議や老人会で認知症についての話をする等の取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が地域の会議に参加し、ホームでの生活や介護を通して認知症に対しての理解を深めてもらったり、中学生や高校生の実習生を受け入れを積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、ホームの事業報告を行い、行事などに地域の方々や老人会の方の参加を依頼しています。	本年度は、併設のデイサービス事業所の開設準備があり、2回の開催となった。市・地域包括支援センター職員、自治会長、家族の代表が参加している。地域でのホーム事業の理解や協力が得られるよう、利用者の思いなども伝えている。	運営推進会議は、地域住民への報告や伝達、地域からの要望や情報交換等の場となる。また、折に触れ、災害時等に、住民からの協力を依頼したりする場ともなるため、できる限り、隔月の開催が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が下呂市介護保険運営委員として参加しているので下呂市介護保険室とも連携が取りやすくよく話し合いをしています。	市職員の運営推進会議への出席を依頼し、協力を得ている。介護保険法の解釈について説明を受けている。ホーム長は市の委員会の委員になり、会議で意見を述べる等、積極的に関わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員と学んできました。施錠やベルトの使用等はしていないが、忙しい時など利用者に声かけをするときに禁止したり、嫌な態度で接していないか。そのことが利用者の心を拘束することになる。	職員は、「身体拘束しないケア」を日々意識して行っており、言葉かけを点検する体制がある。居室は「我が家」であるという利用者の認識を大切に、鍵を本人に渡し、鍵の紛失にも、即、対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者が意識するかしないか別として、利用者の選択を聞くことなしに、聞いてもそれを無視したり介護者の都合で変更することも、利用者の権利を制約・侵害することになり虐待にも繋がるといった議論をしています。		

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会では、支援事業や後見制度について学習したり、下呂市の包括支援センターに相談をしています。まだ利用者に対象の具体的な事例がないため実践していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年を追うごとに利用者の方々のリスクが大きくなること、重度化や看取りに関して、医療連携体制に関して時間をかけて説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望は、会議で必ず報告議論し、結論を報告しています。また施設運営を改善しなければいけない時は、改善点を報告しています。家族には月1回ホームでの生活を手紙で報告しています。	要望や希望は、ホーム訪問時や電話等の連絡時に聴き取り、改善が必要なことには、できるだけ早い対応を心がけており、家族にも報告している。入浴回数を基本週3回としていたが、家族の要望から、業務会議で検討し、毎日でも入浴できるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善、提案を勉強会等の全員が集まる時に提案し、その都度、議論しています。	管理者は、定期的開催する職員会議や勉強会で意見を出す機会を設けており、職員にとっても意見が述べやすい環境、人間関係が築かれている。改善課題等を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等キャリアアップのために積極的に参加してもらい、人事考課を行い職員の希望や目標を議論しながら定期昇給や、賞与に反映し、介護の質を向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉事業団、社協等が開催している研修会に職員の希望とレベルに合わせて参加してもらい、施設運営に反映できるように会議等で報告してもらうようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会の飛騨支部内で、年に1回程度の施設研修をお願いをしたり、2ヶ月に1度ケアマネの交流研究会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にできるだけ面談の機会を持ち、お互いの自己紹介をしながら話をし、何を必要としているのか明らかにするように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での家族の介護の負担を話の中でよく知り、家族の精神面でのケアも大切にしています。また、利用者への思いや、ご家族の要望も把握し、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思い、状況を把握し、様々な社会資源を視野に入れた上で話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩と尊敬し、色々なことを教えていただく場面を作るよう、努力しています。利用者との信頼関係に重点を置き、利用者と介護者など一線を引かず、共に同じ時間を過ごす努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や気付き、ケアプランについての話を面会時や月に一度の手紙等で伝え、一緒に支えていく協力関係、信頼関係の構築に努めています。また、家族の面会時は家族同士でゆっくり過ごしていただけるようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活習慣の理解に努め、集会参加や地域での行事参加、行きつけの美容院など、馴染みの人と会え、楽しい時間が持てるよう支援しています。	家族には、利用者の家への外泊や、家族との外出を勧めており、温泉に出かけた利用者もある。毎月出す便りの中で、ホーム行事への参加も呼びかけている。馴染みの美容院に行けるよう家族に依頼し、出かけて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、リビングでの席順、散歩に出かける人の組み合わせなど配慮したり、利用者同士が支えあえるような場面のセッティング、声かけ、見守りなどで関係が円滑になるよう働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、家族から相談を受けたり、外出先で出会った時は声をかけ、最近の様子を話したりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で利用者がどんな思いで生活しているのか、本人に尋ねたり、会議の時などスタッフ間で意見を出し合い、一人ひとり検討しています。	職員2名が、認知症の方とのコミュニケーションを行うためのセラピーの一つである「バリテーション」の研修を受け、職員会議で報告し、職員間での共有を図っている。ミーティングで、利用者一人ひとりの思いや意向の把握について検討し、取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを熟読した上で、本人の話、家族の話、親類や友人の訪問時の話などをよく聞き、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録を参考にしたり、職員同士の情報交換を行い、行動・表情・生活リズムなどから、総合的に把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、意見を最も大切に、カンファレンス・勉強会において職員全体で意見交換を行い、アセスメントをして、本人にとってよりよい介護計画となるように取り組んでいます。	管理者は、家族に介護計画の作成や見直しのために、半年に1回はホームへの訪問を依頼している。かかりつけの医師や看護師、家族・本人、職員が参加し、それぞれが出した意見を反映した介護計画を作成している。また、実施後3ヶ月で評価を行い、家族に報告もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、気付きなど個別介護記録に記入し、情報を共有し、評価の際の参考にしています。勤務開始前には必ず確認して日々の介護に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望に対し、できるだけ支援出来るよう、その日のスタッフと打ち合わせをしチームで支える努力をしています。しかし、職員の個人での力量をアップし、全体を見て動いていく必要があります。		

岐阜県 NPOグループホームすずらの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地域の催しに出かけています。地域のボランティアに働きかけ、太鼓、傾聴の会など、楽しく豊かな暮らしが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに医院があるため、定期的な受診や往診、急変時すぐに適切な医療を受けられる環境にあります。	入居時の家族との契約で、利用者の全員が協力医をかかりつけ医としている。病院はホームの向かい側にあり、職員の見守りのもと、道路を渡り、ひとりでの受診もしている。かかりつけ医の月2回の定期往診の他、看護師との連絡もよく取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時には、利用者の体調や気になることを看護師に伝えるようにしています。往診時は、口頭で伝え、分からないこと、不安なことは相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、介護サマリーにホームでの生活の様子をできるだけ細かく記入し、本人の性格、サポートの仕方など伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の体調、身体的変化を見ながら、早めに家族との話し合いを行い、その方針を職員間で共有し、本人にとってよりよいケアができるよう努めています。	「命と向き合い、寄り添い、その人らしく、地域で看取りができる」支援を目指したホームの方針を、契約時に本人や家族に説明し、同意を得ている。終末期を迎えるにあたり、「グループホームすずらの木における終末期生活の為の確認事項及び同意書」を家族と交わし、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は勉強会で応急手当等行っていましたが、最近は行っていません。定期的に勉強することで知識として身に付けていく必要があると思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度、防災訓練を行っています。緊急連絡網も準備しており、また、災害発生時に備え、備品など備蓄しています。	防災訓練では、避難経路や消火器の使用法の確認を行っている。災害時に備え、23人分、3日間分の、食品缶詰、水、テント、ポータブルトイレ、毛布、練炭、布団等備えている。	利用者の身体能力の把握や避難路の確保、誘導方法の事項を確認する等の取り組みが、日常において繰り返し行われることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会でパーソンセンタードケアの考え方を取り入れ勉強し、日々のケアに生かす努力をしている。人生の大先輩であることを忘れず、一人ひとりの尊厳を守り、言葉かけにも気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人に選択や自己決定できるように声かけをしたり、選択できる環境作りに努めています。意思表示が困難な方には、表情を読み取りながら声をかけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日、掃除日など定期的に決められてはいるが、そのことや時間に捉われることなく、入居者のその日の希望に沿って柔軟にスタッフが動けるよう努力しています。行事など職員の都合で決めていることもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時には、本人が着る服を決められるよう声をかけています。美容院は直接行ける方には自分で予約していただき、行けない方には美容師に出張して来て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と一緒に見て献立を考えたり、こんな物が食べたい等の希望がある時は買出しに行ったりと食事作りも楽しみなものとなっています。食事や片付けも職員も共に会話をしながら楽しい雰囲気を大切にしています。	毎日、希望する利用者と一緒に、食材の買い物に出かけたり、食事の準備を行っている。栄養バランスは地域包括支援センターの栄養士のチェックを受け、3ヶ月に1回の採血検査も実施している。2ヶ月に1回程、外食にも出かけ、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量のチェックをし、不足の場合は、栄養補助食品で補い、また、水分はこまめに摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず、朝と就寝時の口腔ケアを行っています。その他にも口の中の汚れや臭いなどにも注意を払い、常時気を付けています。		

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンをつかみながらトイレでの排泄を支援しています。また会議などで、おむつが良いのか、布パンツが良いのか等の見直しも行っていません。	排泄を個別にチェックし、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や植物繊維、ヨーグルトなど食べ物の工夫や、散歩への促し、腹部マッサージ等取り組んでいるが、下剤を使用していることも多い。今後も便秘予防に対して工夫していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は設けてあるが、その日でなくても入浴できます。入浴日に気分や体調が良くないときには翌日等にお誘いしています。毎日お湯が準備してあり、いつでも入浴できる環境にしています。	週3回の提供としていたが、利用者や家族の希望を取り入れ、毎日準備し、希望した日に入浴できる対応に変更した。入浴を嫌う利用者には日を変えたり、入浴を誘うタイミングを変えて利用者の気持ちを引き出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて日中も休息して頂いたり、夜間も安眠できるよう、明かりや室内温度、寝具等に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や申し送りノートなどで確認しています。服薬表を利用し、全ての職員が服薬状況を知ることができるようにしています。また、薬を渡してから飲み終わるまで見守りやその後の様子観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を生かせるよう、その方に合わせて畑仕事、裁縫、料理、歌など強制する事なく楽しんで頂いています。また、季節の行事や地域の行事を積極的に取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ本人のご希望にそえるよう支援しています。スタッフが支援できない場合、家族に相談し、協力を得られるようにしている。外出する人が固定してしまっている一面があるため、どの利用者に対しても外出支援ができていくよう努めたい。	ホーム周辺の散歩を日常的に行っている。毎日10時から1時間ほど車で食材の買い物で出かけるが、利用者に希望を聞き、1・2人と一緒に出かけ、帰りに喫茶店に寄る場合もあり、利用者の楽しみになっている。	



岐阜県 NPOグループホームすずらの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理能力を把握し、自分自身で管理してみえる方、金庫に預けてみえる方があります。外出時は財布を持参し、支払いをして頂くよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、家族の都合を考えながら自由に電話したり、手紙を出す支援を行っています。職員も電話をしやすい雰囲気作りに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、毎日掃除しています。こまめに空調を調整し、入居者の目線でホーム内を整えるようにしています。また和室や玄関には季節の花を生けるようにしています。	廊下や建具は落ち着いた色調であり、階段は広く、手すりや滑り止めの配慮もある。リビングには、畳のコーナーがあり、大きな掘りごたつがある。トイレは専門に掃除する人が雇用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階のリビング、ソファ、廊下に置かれた椅子などで、一人になれたり、気の合った利用者同士で話せる空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にできるだけ、使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、より自宅の雰囲気近づけるようにしています。また、写真なども本人と相談しながら飾っています。	利用者の家族に、これまでの馴染みの品を搬入することを依頼し、居室はそれぞれ個別の特色があるものとなっている。ベッドも各自で用意している。居室の掃除は曜日を決め、職員と利用者と一緒にしている。衣類の入れ替えは年に2回で、家族に案内し、家族と共に次の季節を迎える準備をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者にわかりやすいように場所の表示をしたり、目印をつけています。手すりやスロープを設置し、自立した生活に向けての環境整備を行っています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPO グループホーム すずらんの木 (2ユニット)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成21年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>			

## 自己評価および外部評価票(2ユニット)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月4回の勉強会の1回は、理念に基づいた勉強をしています。「利用者の尊厳」を中心に、現在はパーソンセンタードケアを使い職員にレポートしてもらい、介護の中でどのように考えるのかを照らし合わせて学習しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、学校行事、地域の行事に参加したり、ホーム開催の行事に地域の皆さんに参加していただいたり、買い物や、散歩のときに気軽に話をしたり、畑で収穫をさせてもらったりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が地域の会議に参加し、ホームでの生活や介護を通して認知症に対しての理解を深めてもらったり、中学生や高校生の実習生を受け入れを積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、ホームの事業報告を行い、行事などに地域の方々や老人会の方の参加を依頼しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が下呂市介護保険運営委員として参加しているので下呂市介護保険室とも連携が取りやすくよく話し合いをしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員と学んできましたが施錠やベルトの使用等はしてはいないが、忙しい時など利用者に声かけをするときに禁止したり、嫌な態度で接していないか。そのことが利用者の心を拘束することになる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護者が意識するかしないか別として、利用者の選択を聞くことなしに、聞いてもそれを無視したり介護者の都合で変更することも、利用者の権利を制約し、侵害することになり虐待にも繋がるといった議論をしています。		

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会では、支援事業や後見制度について学習したり、下呂市の包括支援センターに相談をしたりしています。まだ利用者に対象の具体的事例がないため実践していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年を追うごとに利用者の方々のリスクが大きくなること、重度化や看取りに関して、医療連携体制に関して時間をかけて説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望は、会議で必ず報告議論し、結論を報告しています。また施設運営を改善しなければいけない時は、改善点を報告しています。家族には月1回ホームでの生活を手紙で報告しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善、提案を勉強会等の全員が集まる時に提案し、その都度、議論しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等キャリアアップのために積極的に参加してもらい、人事考課を行い職員の希望や目標を議論しながら定期昇給や、賞与に反映し、介護の質を向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉事業団、社協等が開催している研修会に職員の希望とレベルに合わせて参加してもらい、施設運営に反映できるように会議等で報告してもらうようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会の飛騨支部内で、年に1回程度の施設研修をお願いをしたり、2ヶ月に1度ケアマネの交流研究会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできるだけ面談の機会を持ち、話をすることで、本人の思いに向き合い、信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ご家族のケアの方向性を聞かせて頂き要望等把握しながら、ゆっくり傾聴して信頼関係を築けるよう努めてます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いなど聞き改善に向けた支援の提案をしたり、相談を受けることで必要なサービスにつなげられるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという認識を持ちながら、家事全般等、いろいろ教えていただき常に協働しながら生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントなどへの参加の呼びかけを継続的に行いながら、本人の状態や職員を手紙や面会時に伝え、家族と職員の思いが重なっていくよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所や関係を知り、希望に合わせて外出支援をし、これまでの生活習慣を大切にしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に入居者の状態を把握し、入居者同士の批判や攻撃的な会話にならないよう気を配り、必要に応じて間に入り明るい話題、楽しい話題を提供している。また利用者同士支え合えるような仕掛けを少しずつ行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活が継続できるよう、ケアプランや、支援状況等の情報提供を行っています。また、契約終了後でも、家族からの相談にのっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりの中で会話などから、本人の希望や意向の把握に努めています。意思疎通が困難な方には、これまでの暮らし方を大切にや家族と相談しながら、本人にとっての最良の生活を検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを基に、会話の中から探り出したり、家族や他の職員からも情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、表情や言動に気を配り把握に努めています。その情報を職員全員が確認出来るよう、介護経過記録を利用しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の想い、意見を最も大切にし、カンファレンス・勉強会において職員全体で意見交換を行い、アセスメントをして、本人にとってよりよい介護計画となるように取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人・家族の思いを聞き、またカンファレンスや勉強会等で職員同士の意見交換を行いながら、プランの作成を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に合わせて、通院や送迎等柔軟に対応しています。		

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地域の行事に参加するようにしています。ボランティアの受け入れを積極的にしており、日々の生活が豊かなものとなるよう努めています。今後より一層幅を広げていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医やかかりつけ医での受診を家族と協力し通院介助等行っています。協力医が近隣にあるため、何かあった時にはすぐに対応できる環境にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診・往診時には、体調の変化を報告し、診察して頂くようにしています。訪問看護師に気軽に相談できる関係になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐためにサマリーを作成し情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況をみながら早めに家族との十分な説明また書面における記録にも努めています。医師、看護師と連携をとりながら、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認しながら支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当について勉強会で行っていたが、定期的に訓練していく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度、防災訓練を行っています。緊急連絡網も準備し、また、災害発生時に備え、備品など備蓄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを大切に、言葉使いに気をつけると共にパーソンセンタードケアやICFの視点を勉強し、実践できるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた声かけで職員側で押し付けないよう本人が決める場面を意識して作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の体調や気持ちを尊重して買物、散歩、食事、家事等、希望に合わせて行っています。真のニーズを把握するように言葉や思いの奥にあるものに対して見極められるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向で着替えを選んで頂いています。自己決定しにくい場合は、一緒に行く。馴染みの美容院に行ったり、訪問カットにも来て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決め、調理、盛付、食事、片付を楽しい雰囲気大切にしながら共に行っています。今後は一人ひとりに合わせた促しをしていく必要がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェックし、摂取量の少ない時には栄養補助食品を利用したり、その時食べられる物を食べられる分だけ摂って頂いています。水分摂取量にも気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩、自分でできる方は自分で、難しい方は介助しています。自立度の高い方に対しての把握がしっかり行えていないため、今後重要視していきたい。		



岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方など必要に応じて排泄表で一人ひとりのパターンをつかみ、トイレで排泄に向け促しを行っている。デリケートな部分であるため、不快な気持ちにならないよう気を配っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂る事や適度な運動が腸の動きを良くする事を伝えています。食べ物に気を配り、腹部マッサージも行っています。本人の訴えに薬や浣腸を使用する事もあるが、刺激にて自然排便を促すことを心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持のため、入浴日は3日に一度設けているが、本人の希望を確認し、その日でなくても好きな時に楽しんで入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子を見て休息して頂いています。なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるようにしています。自己決定ができない方のリズムや状態の把握がより必要となる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、名前等確認し、誤薬、飲み忘れがないかのチェックを行っています。服薬後の変化にも気を配っていく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントで本人の得意なこと、好きなこと等ストレングスを見出し、活躍できる場を提供出来るよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調に合わせて散歩、買物、喫茶店などに出かけています。希望を言われない方に対しても積極的に仕組みを立てて促していく必要がある。日常的に外出支援できないような場所に関しては、ご家族等の協力を得て行っています。		

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の管理ができる方には自分でして頂き、難しい方には金庫でお預かりしています。買物時にはなるべく自分で支払いして頂いています。一人ひとりの可能性を引き出すためにも、きめ細かく見ていく必要がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態を見て職員が促したり、本人の希望があれば自由に電話をかけて頂いています。訴えがある方には実行しているが、一人ひとりへの取り組みがもっとされていくと良い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整をこまめにし、過ごしやすいように気を配っています。飾りを置いたり花を飾ることで季節を感じられるよう努めています。また、毎日掃除をし、清潔を心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階のリビングや、廊下のソファ、椅子などで、一人もしくは気の合った方々で話せる空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具などを持ち込んで頂き、本人と相談しながら使いやすいように置いています。家具などが無く、閑散としている居室もあるため、ご家族と相談しながら工夫していきたい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、浴室、トイレには手すりを設置しています。また、場所がわかりやすいように貼り紙をしたり、洗濯機、ポットなどスイッチの順番を書いたり、できるだけ入居者が自立して行動できるよう工夫しています。		